

目に青葉 山ほとゝぎす 初かつを 向う両国国技館

DOS DOJO magazine

／ことばうあ〜／



特集

力士は滅びぬ。何度でも甦るさ

力士と傷病 復活実例集

国技館バック
ヤードツワー

2016.5

VOL.15

ケガとワイシャツと力士

応援している力士や、鳴り物入りで番付を駆け上がってきた力士がケガで休場…

これほど悲しいことはない！

とはいえ、身一つで闘う彼らにケガはつきもの。

今回は力士とケガ、病気の関係について軽く調べてみたよ。



力士とケガ

まず、力士にとって擦り傷・切り傷は日常茶飯事。足の裏だって毎日の稽古でカチカチだけど、だからといって冬の朝の土の冷たさが全然効いてないわけじゃない。お腹も壊すし風邪だって引く。それから一番怖いのは力士生命に関わるような大きなケガだ。そもそも取組中や稽古中に大出血しても平気な顔をしているのはアドレナリンのお陰で、力士だって普通のGUY。注射はキライだし血を見るのだって本当は苦手だ。それでも泣き言なんか言っていられない彼らは、日常生活レベルのケガなら例えばアロンアルファや卵の殻の内側の薄い膜なんかを使って傷口をふさいで治してしまう。それから「塩つけときゃ治る！」なんて言われて普段以上にかわいがられてしまうことも…（実際に傷口に塩をつけたら治りが早くなるわけないんだけど、そこが角界クオリティだ。）

体格の向上がケガを招く？

立合い時の激しいぶつかり合い。その時に産み出される力はおおよそ2トンとも言われる。そんな力士同士が死力を尽くしてぶつかり合えば、ケガが発生してしまうのもいたしかたないというもの…昔は「ケガが多いのは稽古不足の証拠」などと言われた。まあたしかに事前の準備運動でしっかりと汗をかきストレッチをすることでケガの予防にもなる。だけど昔と今とじゃ力士の体格差は全然違うんだ！ 右の図を見ればわかる通り、力士の体格は全体的に大きく変化していて、衝撃や腰やヒザに加わる負担が増してきている。これが昨今のケガにつながる一つの要因というわけだ。ちなみに角界ではかように体格の向上(?)が認められるが、一般成人男性の平均値は特に変化していないことにも注目したい。

20年くらい前との幕内力士の体格差

曙	203cm	225kg	白 鵬	192cm	155kg
貴ノ浪	195cm	161kg	鶴 竜	186cm	155kg
武蔵丸	191cm	190kg	日馬富士	185cm	135kg
琴 錦	176cm	139kg	稀勢の里	187cm	175kg
魁 皇	184cm	157kg	豪栄道	183cm	158kg
小 錦	185cm	269kg	琴奨菊	179cm	181kg
朝乃若	178cm	146kg	照ノ富士	193cm	186kg
舞の海	171cm	97kg	琴勇輝	176cm	172kg
琴稲妻	180cm	130kg	勢	194cm	165kg
水戸泉	193cm	186kg	魁 聖	194cm	197kg
貴ノ花	186cm	141kg	隠岐の海	191cm	162kg
若ノ花	180cm	127kg	妙義龍	187cm	145kg
武双山	184cm	164kg	宝富士	186cm	165kg
寺 尾	185cm	113kg	逸ノ城	193cm	211kg
平均値	175cm	151kg	平均値	188cm	169kg

※平均値は幕内41人のもの。

相撲でよく 耳にするケガ よりぬき5種

我々もこれらのケガをする可能性がある。
筋肉はみなに平等に存在していることを
お忘れなく。

はむすとりんぐすそんしょう

ハムストリングズ損傷

おいしそうな名前だが油断してはいけない。これはヒザ関節にまたがる大腿二頭筋・半腱様筋・半膜様筋の総称なのだ。足を動かすのに使うため疲労が大きく、すぐに固まる性質を持っているので、急に力んだときなどにケガになりやすい。いわば肉離れ。ピキッという違和感を感じ、ケガをした部位が伸びにくくなる。1年以内の再損傷の確率が30%以上という、力士の敵。

▲ 豊真将 など

ぜんじゅうじじんたいだんれつ

前十字靭帯断裂

ヒザがガクツとなり、ずれた感じがする。痛みはすぐ治まり日常生活にも支障なく過ごせるようになるが、不安定感が残り放置しておくヒザのガクガクが恒常化するようになる。そしてそのうちに内側半月板（関節のクッション）が擦り切れてくる→半月板損傷（断裂）→半月板切除→関節表面の軟骨が削れるという負のループに…怖すぎる。これぞまさに力士の敵。

▲ 安美錦、妙義龍 など

かんせつないゆうりた

関節内遊離体（関節ねずみ）

ひじ（やヒザ）に何か挟まっているような感じがしたり、曲げ伸ばしができなくなって痛みを感じる。これは関節を構成している骨や軟骨の一部が何らかの理由（力士の場合はてっぽうなど）などによってはがれ、その欠片が関節内を動きまわるせい…ってこええよ！ 動き回るからねずみ。関節の間にはさまると、関節が動かなくなったり痛んだりする。隠れた力士の敵。

▲ 日馬富士 など

ひざのないそくそくふくじんたいだんれつ

ヒザの内側側副靭帯断裂

ヒザの中の十字靭帯というバンドを断裂するけが。すばやく方向転換したり、ヒザの外側から内側への力で起こり、ヒザのお皿あたりに痛みが出る。ヒザの捻挫として発生頻度も多く、初期に適切な固定をすれば修復しやすいが、ひどくして手術ともなれば復帰までに6ヶ月も掛かる、力士の敵。

▲ 琴奨菊、栃ノ心 など

ほうかしきえん

蜂窩織炎

皮膚の深いところ、皮下脂肪組織などが膿む。患部はぼんやり赤く腫れ、熱感と痛みがある。発熱・寒気や頭痛、関節痛を伴うことも。で、この後が怖いんだけど、時間がたつとぶよぶよとして、皮膚が破れて膿とかが外へ流れ出る…。ギャー！ 太った人はなりやすいらしく、力士の真の敵。

▲ 照ノ富士、逸ノ城 など

それでもなぜ土俵へあがるのか

テーピングをガチガチにして、痛みをこらえながら土俵にあがる力士もいる。「もういいから休んでくれーっ!」と叫びたくなるけれど、そもそもそこまでして土俵にこだわる理由とはなんだろうか。

プライドももちろんだが、気になるのはやはり番付。場所を全休すれば番付は一気に15枚半は降下する。15敗した場合も15枚下がるけど、全休の場合は「努力が足りぬ」ということで全敗した場合よりもさらに半枚下げられてしまうらしい。努力の末に何年もかけてジリジリと上げた番付が一気にこんなに下がるのはやるせないものがあるよね。というわけでケガの理由は様々だが、長く土俵を務めていれば自ずとケガも増えてくる。ケガを事前に防止しつつ、すでに抱えているケガとうまくつき合っていきながら、日々稽古に精進しているんだ。

力士も人の子、病気もする

病気の方はどうかというと…力士は一見強そうに見えるけど、常に外気に裸体を晒している彼らは一般人よりもむしろ風邪を引きやすかったりする。なにより多くの力士たちは共同生活を送っているから、部屋で誰かが風邪でも引こうものならあっという間に感染が広がってしまう。インフルエンザが角界で大流行して、力士だけでなく行司や呼出しも相次いで休場したのも記憶に新しい(力水の回し飲みの柄杓も危険??)。また無理な飲食をすることで糖尿病になったり、体の大きさのせいで心臓に負担がかかり、心筋梗塞になりやすかったり…いやはや、おすもうさんは大変なんだなあ。

公傷制度[こうしょうせいど]ってなに?



ここまで読むと、「ケガをした力士が番付を気にせずにケガを治して、また全力で戦えるように配慮してくれる仕組みを作ればよくない?」と思うかもしれない。まさにその疑問に答えるような制度が平成15年11月場所までは存在していた。それが「公傷制度」だ。

横綱以外の力士が本場所の取組中にケガをして休場した場合は、翌場所でも同じ地位に留まれるというもの(ちなみに横綱はどれだけ休んでも番付が下らない)。公傷は1回の怪我につき1場所までの全休が認められていたが、「場所中にケガをした」と届けを出す力士が異様に増えたため、なんだかんだ「番付が下らないからってウソつくんじゃねえ!」みたいな感じになり、廃止となってしまいたんだとさ。どっとはらい。

蘇れ！力士傷病物語

現在土俵を務める力士たちの中にも、過去に大きなケガを負い
それでもあきらめずに再び幕内へと戻ってきた奴らがいる！
そんな奴らをさらりとご紹介します。



ことゆうき かずよし

琴勇輝 一巖

前10

+13

関脇

左膝蓋腱断裂・前十字靭帯損傷

本名：榎本 勇起 / 所属部屋：佐渡ヶ嶽部屋 / 生誕：1991年4月2日 / 身長：176cm / 体重：176kg / 出身：香川県小豆郡小豆島町 / 得意技：突き・押し / 自己最高位：東関脇（2016年5月場所、現在!）

突き押し系力士の中では今一番のっている実力者で、その意気込みは彼の両手にぐるぐる巻かれたテーピングからも見てとれる。立合い直前の「ホウ！」は審判部のダメ出しにより封印。「俺の顔はここまでだ、ここから先は首だぜ」と主張するかのようなひげのラインがトレー

ドマーク？ 2013年11月場所で左膝蓋腱（しつがいけん）断裂と左ヒザ前十字靭帯損傷の大ケガを負い、手術とリハビリを行った。しかし休場期間が一場所のみだったため、前頭10枚目から十両13枚目まで落ちただけで済んだ。復帰後は順調に番付をあげている。

とちのしん つよし

栃ノ心 剛

前11

下55

小結

右ヒザ前十字靭帯断裂、内側側副靭帯断裂

本名：レヴァニ・ゴルガゼ / 所属部屋：春日野部屋 / 生誕：1987年10月13日 / 身長：190cm / 体重：169kg / 出身：ジョージア・ムツヘタ / 得意技：右四つ、寄り、上手投げ

相撲を始める前は柔道やサンボなどを経験し、2004年には相撲の稽古を一度も経験しないまま世界ジュニア相撲選手権大会に出場、3位入賞を果たすなど期待の新人であったが、力士の服装規定違反や門限破りを繰り返し、怒り狂った親方にゴルフクラブでぼこぼこにされた過去も。2013年7月に右ヒザ前十字靭帯断裂、右ヒザ内側側副靭帯断裂の大ケガを負い幕下55枚めまで陥落した。一時は引退も考えたが、復帰後はケガをする前よりも強くなり、現在は幕内上位の常連である。



あむうる みつひろ

阿夢露 光大

下8 → 三68 → 前5
左ヒザ前十字靭帯損傷

本名：ニコライ・ユーリィヴィッチ・イワノフ／所属部屋：阿武松部屋／生誕：1983年8月25日／身長：191cm／体重：136kg／出身：ロシア・レソザボスク／得意技：右四つ、寄り

過去の角界に存在したロシア人力士たちとは一線を画す謹厳実直・臥薪嘗胆・不撓不屈の人物。日本人の義兄に勧められ相撲を始める。幕下付近での足踏み期間が長く、2010年7月場所にようやく自己最高位の幕下8枚目まで番付を上げたが、その場所中に左ヒザ前十字靭帯に重傷を負い休場へ。手術はせず筋力強化を中心としたリハビリに取り組んだ結果、以前よりよい相撲がとれるようになり、復帰後は順調に十両から幕内へ活躍の舞台を移した。外人の十両昇進スロー記録2位。



ちよのくに としき

千代の国 憲輝

前8 +11 前10 +6 前16 三28 +3
右肩脱臼、左太もも二頭筋損傷ほか多数

本名：澤田 憲輝／所属部屋：九重部屋／生誕：1990年7月10日／身長：182cm／体重：139kg／出身：三重県伊賀市／得意技：突き、押し

ケガと言えばこの人。がんばり屋で負けん気もとても強いが、結果的にそれがケガにつながってしまい過去に何度も大きなケガをしている。両肩の脱臼癖あり、準備運動中に息を止めて気合いをいれていたら昏倒して大出血あり、2012年7月の左手靭帯断裂、2013年7月場所の足がまたさきになっちゃって左太もも二頭筋損傷、同年11月場所の右しょう骨骨挫傷、2014年5月右しょう骨骨折、同年9月両ひざ半月板損傷… とにかくケガが多く、休場と返り咲きを繰り返している。逆にすごい。

ときてんくう よしあき

時天空 慶晃

前14 → 下46
右肋骨骨折、悪性リンパ腫

本名：同じ（日本人に帰化）／所属部屋：時津風部屋／生誕：1979年9月10日／身長：185cm／体重：141kg／出身：モンゴル・ウランバートル／得意技：足技・右四つ・投げ・寄りなど

十両から幕内下位で土俵を沸かす曲者力士。柔道経験者で足技や立合いの駆け引きが彼の持ち味。時折けたぐりもみせる。対戦力士たちは彼の足技対策をしているはずだが、とにかく巧い。2015年11月場所において右肋骨を骨折し休場していたが、その後の2016年1月場所前に血液のがんと言われる「悪性リンパ腫」に罹っている旨が公表され、現在は治療に専念している。ガンバレ時天空！



国技館の

バックヤード見学

ツアーに参加しよう！

at 両国にきわい祭り

毎年5月初め頃、
両国では地域の活性化と
街のPRを目的とした
「両国にぎわい祭り」を
開催しています。
街のいたるところで
イベントや屋台が出るなど
好評のこのお祭り、
もちろん相撲も二役買っています。
今回はその中のイベントのひとつ、
相撲協会主催の
バックヤードツアーに
行ってきました。



このツアーは
お祭りの中でも
×イベントのような
存在のため、
とにかく人が多い！
国技館の外まで
人が並びます。
料金は200円だよ。

ツアーと言いつつ
人が多すぎて各自勝手に
見学コースを進む。



東の支度部屋では
行司さんが板番付を
書いているところ。
本場所ではこれが
国技館正門の
櫓のところに
飾られるのです。

支度部屋



支度部屋って天井も高くとても広い！
あんまり力士がすれ違えるくらいの畳の幅+
板敷き部分でかなりのスペースがある。
天井にはテレビ。キレイに掃除されてるなあ。

…だけど地下のせいか蛍光灯のせいか、
なんとなく陰気な雰囲気(笑)
さらにムレている臭さ！(笑)



両手を付いて
厳守。審判部
種々の新カニ...
「老道」嚴禁
いふかいは指定の場
文指定の場

じいさんの入る場所

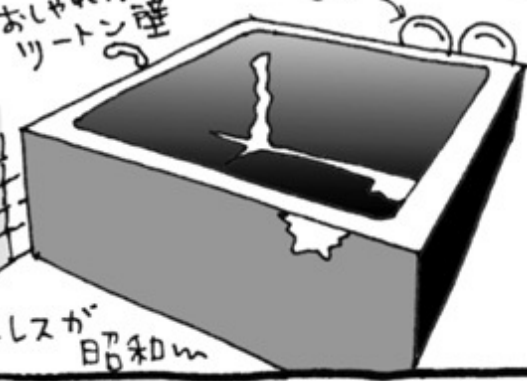


まじの。ハンジからつづき

東支度部屋を入って左手に
トイレとお風呂に続く洗面所があり、
洗面所内は右がトイレ、左がフロです。
(西支度部屋は直逆の間取りで
入って右手に洗面所がある)

トイレ他

昭和のがほり 全面タイル



孫の里に
やっあたりされた
せんめんき?

おしやれた
シートン壁

これが「つゆせのか士サイズ」
どどがいトイレ
たしがにでがし

ステンレスが昭和の

うきやうがしたトイレに悩むカ士の自伝

でかいとろんせが
力士を運び車椅子も展示されています。
どうやら国技館のものは国技館専用、
地方場所のものは地方場所専用と
別に用意されているみたい。

車椅子



↑
国技館の車いす
病院の待合室の
いすみたい。

大阪の車いす
背もたれが高い
素オがなんか
高きっほい ↓



どちらもいかにも特注の風情

ストレッチャーは
意外にも普通のサイズ。
カ士サイズにすると
救急車に乗らない
からかな?

相撲



おちる〜
絶対
はみ
でる!

審判部屋

こちうもだだっ広い
審判部のための部屋。
靴箱はあいたところに
テキトーに入れるんじやなく
名前シールを貼ったところへ
自分の履物を入れるのね。
3月まで審判部だった
井筒親方の草履が
まだあったよ…。

ぜいたくな
洋服かけ ↓



へはんか
フスモ
どどがい

ツアーの最後には
関ノ戸親方(元岩木山)が
土俵のあるあたりで
あれこれと解説して
くれます。

土俵闘



そのほか、相撲教習所での「カ士に挑戦」コーナーや
ちゃんこ屋台などもあり、相撲好きにはたまらん
もりだくさんのお祭りですー。
ぜひ来年のにぎわい祭り、足を運んでみてね。

まじまりきらなかつた。まじまり